

Opinion 女性スポーツ京都会議に参加して

中沢 伊登子

京都近隣府県や東京から集まったスポーツウーマンは、十分に満足されたようです。そして、この会議はスポーツの原点を見つめてみるいい機会にもなったと思います。女性スポーツの発展を目指す今後の活動に期待しています。

私は「女性スポーツ京都会議」では、午後のパネルディスカッションのパネリストとしての要請を受けていました。しかし、当日の午前10時半すぎから、元オリンピック女子体操選手で、現在日本オリンピック委員会委員の小野清子さんの基調講演があるというので、早朝から宝塚（兵庫縣）の家を出て、会場の京都ホテルに向かいました。

小野さんの講演は、さすがに素晴らしい内容でした。会場の大半を埋めた主婦にも大いに参考になったのは、小野さんが東京オリンピックに出場された時、お子様がお二人もいらしたという点です。もっとも、ご主人もオリンピックの体操選手（小野喬氏）元五輪金メダリスト）でしたから、一般の家庭とは違います。とはいえ「スポーツとどのように取り組んだらいいのか」、或いは「育児や家事とスポーツをどのように両立させたらいいのか」等々、日頃モヤモヤした悩みを持っている人たちに、大きな励ましと示唆を与えてくれたと思います。また、母親がスポーツをすることで、家庭を明るく楽しいものにし、家族にもスポーツに親しむ雰囲気を作り、家族の健康作りにも役立たせることができる——という



▲最年長ながら語り口のさわやかな中沢さんはさすがスポーツウーマン

うものばかりではなく、ちょっと外に出て子どもとボール投げをするのでもいいし、家族と近所をジョギングするのもいい。庭でバレーボールをする事から始めてもいいのではないかと。この提案された荒木田さんは、スイスで5/6年、バレーボールの指導者として活躍された方ですが、スポーツの大衆化が進んでいる中で、大いに参考になるアドバイスではないでしょうか。

家事を手早く処理するために、手抜きばかりでは困るし、勝利志向で勝つ事ばかりにうつつを抜かしては、折角のスポーツの本質を見失うことにもなりかねません。「人間を磨き、人の和も培ってゆかねばならない」という若い岡本さんの述べも、とてもよかったです。

この日は、会場に來られた方にとっで、スポーツをするという事はどういうことなのか、「何のために」と、その原点を見つめてみるいい機会だったのではないのでしょうか。

パネルディスカッションの前の、三ツ谷さんのスライドによる「目で見る女性スポーツ史」では、女性スポーツの米し方を聞き、とにも角にも、こうして自由に、軽快な服装で各方面のス

スポーツに進出して楽しめる時代に生まれあわせた幸せに感謝しなくては……と、思うことしきりでした。これも、平和な時代だからこそです。

私自身、軟式テニスを通じて日本ばかりか外国にも、ラケット一本で心の底から親しみ、睡みあえる友人を山ほど持つことができました。これは、私たちの幸せばかりか、国際親善の役まで果たすことにもなるということ、生き甲斐をも感じています。これが正に、生涯教育であり、スポーツの役割の一つともいえるでしょう。

スポーツを共に楽しみ、喜びを分かちあうものにしてゆくには、この会議を花火で終わらせてしまうことなく、会議で得たものをたくましく育てていくことが大切です。最後に、会議開催の英断を下された京都新聞社に敬意を表すると共に、祝辞をいただいた京都府、京都市に対し、「明日を拓く女性の英知と躍動」がその期待に応えてくれることを願ってやみません。

八中沢伊登子さんの略歴▽日本OG軟式庭球連盟会長、参議院議員をへて、現在、中央選挙管理委員などとして幅広く活躍。昨年、勲二等瑞宝章受章。大正4年、静岡県生まれ。